

「フランスの精神分析」(『精神分析・精神病理の臨床研究』第四期)

日本で主流となっている精神分析は、クライン、ビオン、ウィニコットを始めとする英米圏の精神分析である。しかし、世界の趨勢を俯瞰的に眺めると、英米圏のそれとは異なったフランス独自の文化的土壌から生まれた精神分析があり、とりわけロマンス語圏の国において圧倒的な影響力を持っている。

フランスの精神分析と言えば、ラカンの名前と結びつけられて語られることが多いが、それはあくまで、その潮流の一つでしかない。その中でもアンドレ・グリーンは、ウィニコット、ビオン、ラカンを批判的に継承し、現代の精神分析理論の更新を図ったが、その困難な試みは、彼の没後は展開も継承もされないまま、忘れ去られつつある。

今年度のセミナーでは、アンドレ・グリーンをはじめとする、ビオンに影響を受けたフランス語圏の分析家たちの仕事に焦点を当て、フランス精神分析の全体像を把握することを試みる。そのさい彼らの臨床的思考をより深く理解するために、グリーンが「敵」と呼んだラカン派の臨床の現代的な動向も随時参照する。

日 程：2025 年 5 月～2026 年 3 月 (6 月、11 月は休み) 全 9 回

第二日曜日 (原則)、午後 1 時 30 分から 4 時まで

ファシリテーター：十川幸司

形 式：担当者が指定された論文のレジюмеを発表し、全員で討論する。

テキスト：その都度、文献を指定し、配布する。

(フランス語が全く読めなくても参加できるように、英訳、邦訳のある文献を取り上げます。ご気楽にご応募下さい)。

参考文献：英語で読めるものとしては、Reading French Psychoanalysis (Routledge,2010) が全体像を理解するのに役立ちます。

定 員：10 名

資 格：臨床に携わり、毎回指定された文献を精読したうえ、参加できる人。

場 所：小寺財団第二セミナールーム

参加費：35000 円 (参加者が決定次第、振り込み情報をお伝えします)

申込方法：下記 URL または QR コードよりお申し込みください。

<https://forms.gle/8YzEjhjEHgxvV5dS7>



申込期間：2025 年 3 月 11 日 (火) ～ 4 月 27 日 (日)

問合せ先：小寺記念精神分析研究財団 事務局 kodera.fps@gmail.com

主催：小寺記念精神分析研究財団